

九州半導体人材育成等コンソーシアム

2025年度 サプライチェーン強靱化WG活動 報告

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1) サプライチェーン強靱化WG構成機関 | P 2 |
| 2) 2025年度活動報告 | P 3 ~ 18 |
| 3) 2026年度活動方針案 | P 19 ~ 23 |

2026年3月19日（木）

九州半導体人材育成等コンソーシアム
サプライチェーン強靱化ワーキンググループ

座長 鈴木 清己

サプライチェーン強靱化ワーキンググループ(WG) 構成機関

サプライチェーン強靱化WG:座長 鈴木 清己 氏(サプライチェーン強靱化WG構成メンバー/産学官96機関)

2026年3月10日時点

産業界	1	旭化成エレクトロニクス株式会社
	2	株式会社アムコー・テクノロジー・ジャパン
	3	株式会社アルプス物流
	4	エア・ウォーター株式会社
	5	SMC株式会社
	6	NRS株式会社
	7	株式会社荏原製作所 熊本事務所
	8	株式会社エフ・シー・シー
	9	NTTドコモビジネス株式会社
	10	株式会社オジックテクノロジーズ
	11	株式会社九州エフ・シー・シー
	12	株式会社九州日新
	13	株式会社近鉄ロジスティクス・システムズ
	14	株式会社くまさんメディクス
	15	興研株式会社
	16	株式会社SUMCO
	17	株式会社SANMATSU
	18	株式会社ジーダット
	19	Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社
	20	株式会社ジャパンセミコンダクター
	21	株式会社スズキ
	22	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
	23	株式会社タケシタ
	24	田中藍株式会社
	25	中央電子工業株式会社
	26	TXOne Networks Japan合同会社
	27	株式会社テラプローブ
	28	株式会社デンケン
	29	株式会社デンソー
	30	株式会社電通九州
	31	東京エレクトロン九州株式会社
	32	東京応化工業株式会社
	33	豊田通商株式会社
	34	株式会社西村ケミテック
	35	日清紡マイクロデバイスAT株式会社

産業界	36	日本マイクロソフト株式会社	
	37	日本通運株式会社	
	38	ノリタケ株式会社	
	39	株式会社ヒサノ	
	40	株式会社日出ハイテック	
	41	平井精密工業株式会社	
	42	株式会社平山GL	
	43	株式会社藤田ワークス	
	44	マーシュジャパン株式会社	
	45	マーシュ総研株式会社	
	46	マイクロカット株式会社	
	47	三井不動産株式会社	
	48	三菱電機株式会社 パワーデバイス製作所	
	49	三菱マテリアル株式会社	
	50	株式会社 安川電機	
	51	横河ソリューションサービス株式会社	
	52	吉川工業株式会社	
	53	ラピスセミコンダクタ株式会社 宮崎工場	
	54	ラムリサーチ合同会社	
	55	ルネサスエレクトロニクス株式会社	
	56	株式会社リョーサン	
	57	ロジスティード九州株式会社	
	行政機関	58	福岡県
		59	佐賀県
		60	長崎県
		61	熊本県
		62	大分県
		63	宮崎県
		64	鹿児島県
		65	北九州市
		66	福岡市
		67	熊本市
	68	財務省長崎税関	
	69	国土交通省九州運輸局	
	70	国土交通省九州地方整備局	
71	経済産業省(本省)		

金融機関	72	株式会社大分銀行
	73	株式会社熊本銀行
	74	株式会社佐賀銀行
	75	株式会社西日本シティ銀行
	76	株式会社日本政策金融公庫
	77	株式会社日本政策投資銀行九州支店
	78	株式会社福岡銀行
	79	株式会社肥後銀行
	80	株式会社三菱UFJ銀行
	81	株式会社宮崎銀行
協力機関	82	株式会社山口フィナンシャルグループ
	83	大分県LSIクラスター形成推進会議
	84	かごしまモノづくり推進協議会
	85	一般財団法人日本気象協会 九州支店
	86	公益財団法人北九州産業学術推進機構
	87	一般財団法人九州オープンイノベーションセンター
	88	公益財団法人九州経済調査協会
	89	一般社団法人九州経済連合会
	90	公益財団法人九州先端科学技術研究所
	91	一般財団法人熊本県工業連合会
	92	公益財団法人佐賀県産業振興機構
	93	国立研究開発法人産業技術総合研究所 九州センター
	94	独立行政法人中小企業基盤整備機構 九州本部
	95	独立行政法人日本貿易振興機構 福岡貿易情報センター
	96	明倫国際法律事務所

現状と課題（2024年度までの事業より抽出）

- 2021年4月以降、公表・判明分だけで126件・4兆7,900億円超の新規投資が計画 ※1

⇒ 九州への投資が進む中で、地場企業がいかにこの投資効果を取り込むことができるか

⇒ 地域の産学官金が連携をして、地場企業がサプライチェーンに参入するための取組が必要

- 九州は高付加価値の半導体を多く生産しており、顔の見える関係性の構築を通じてサプライチェーン強靱化を図り、有事の際にも供給責任を果たすことのできる体制構築が急務。
- 実証、改善を重ねながら、平時・発災時とも機能する半導体関連の九州物流モデルの確立を目指す
- グローバルサプライチェーンへの参入を行う際に重要なテーマ（GX、サイバーセキュリティ等）について、情報を発信し、理解促進・取組の加速化を図る必要がある

※1) 2025年3月末時点 九州経済産業局調べ。
金額は公表済のみ

※2) 生産金額ベース。
九州経済産業局「九州地域の鉱工業動向」

2025年度の主な活動（方針）

① ビジネス創出・拡大に向けた取組

- 九州域内の大手企業と地場企業等との連携、マッチング（チャレンジマーケット等） **【拡充】**
- 技術的な課題解決に向けた産学官の検討の場の開催（テーマ別ワークショップ等） **【継続】**
- 九州域外事業との連携・マッチング支援 **【継続】**

② 企業間連携によるネットワークの構築

- 企業間交流会（SIIQ主催）への参加（SIIQ会員交流会） **【継続】**
- 九州が一体となった効率的な物流網構築（九州域内共通化） **【拡充】**

③ グローバルサプライチェーンへの対応

- グローバルサプライチェーンで求められる情報発信※GX、サイバーセキュリティ、CN、PFAS 等 **【拡充】**
- 海外との交流等を活かした相互の情報発信（日本・台湾半導体技術国際シンポジウム 等） **【継続】**

2025年度 活動計画および報告

2025年度（計画）

ビジネス創出・拡大に向けた取組

拡充

「チャレンジマーケット2025」を開催予定
第1回：三菱電機様にて実施予定
今後、九州域外と連携した開催を企画中

企業間連携によるネットワークの構築

継続

企業間交流会の開催

拡充

九州物流網構築
一部エリアでトライアルを開始予定

グローバルサプライチェーンへの対応

拡充

セミナーの開催
工場建設マネジメントセミナーを4月16日開催
サイバーセキュリティセミナーを2回開催予定
(第1回：基礎、第2回：経営者層向け)

継続

「半導体技術国際シンポジウム」を開催
(セミコン台湾)

2025年度（報告）

チャレンジマーケット2025

- ・場所：三菱電機 パワーデバイス製作所（福岡）
- ・開催日：2025年12月19日

企業間交流会

- ・開催場所：大分港
- ・開催日：2026年1月30日

九州物流網構築

- ・X-Net PJ参画オファー面談を実施。
- ・本年度よりトライアル開始

セミナーの開催

- ・第一回工場建設マネジメント（2025年4月16日開催）
- ・第二回工場建設マネジメント（2026年2月13日開催）
- ・カーボンニュートラル（2026年3月11日開催）
- ・サイバーセキュリティ（2026年3月23日開催予定）

半導体技術国際シンポジウム

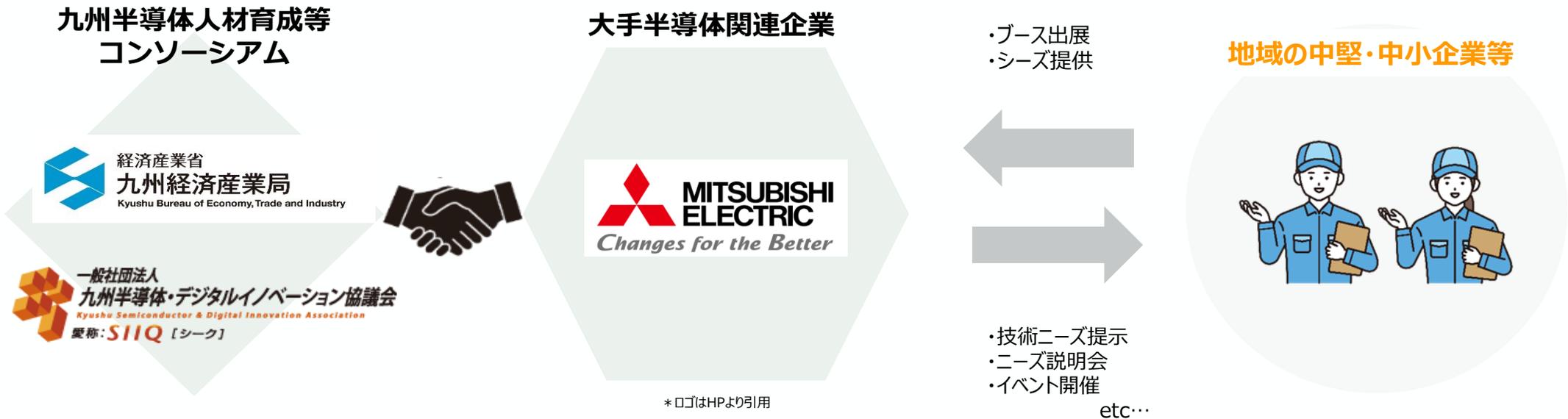
- ・テーマ：半導体3Dパッケージング：2025年9月10日開催

チャレンジマーケットとは

「大手企業（開催企業・1社）の技術ニーズ」

× 「地場中堅・中小企業（出展者・複数）の技術シーズ」のマッチング事業

- 事前に開催企業から技術ニーズを提示、出展者は技術ニーズに応じたシーズを提案。
➔ 開催企業と出展者のミスマッチが抑えられ、通常の展示会よりも、効率的な商談機会の創出が可能。
- 原則、開催企業の会議室など施設内で開催。そのため、参加者は開催企業とその関係会社に限定。
➔ 開発・設計部門だけでなく、製造、調達 等の幅広い部門から、多くの関係者様が見学可能。
普段取引やコネクションがなかった部門との商談機会の創出に貢献。



チャレンジマーケット2025（三菱電機株式会社 パワーデバイス製作所）

中堅・中小企業、大学等のみなさま



チャレンジマーケット2025

三菱電機株式会社 パワーデバイス製作所

九州半導体人材育成等コンソーシアム(共同事務局:九州経済産業局、一般社団法人九州半導体・デジタルイノベーション協議会)は、九州に立地する大手半導体関連企業と、中堅、中小企業等とのビジネスマッチングを促すべく「チャレンジマーケット2025」を開催します。
今回は、三菱電機株式会社 パワーデバイス製作所が発信する技術ニーズに基づくビジネスマッチングイベントです。

01

募集要項を確認のうえ、別紙「出展申込書」に必要事項を記入いただき、期限内に事務局まで御提出ください。



2025年 9月24日
公募開始

02

三菱電機(株) パワーデバイス製作所より、本イベントへの期待、発信ニーズに関するオンライン説明会を開催します。



2025年 10月21日
ニーズ説明会

03

三菱電機(株)の担当者や出展他社とのコミュニケーションを通じたビジネスマッチング、アライアンス形成に繋がります。



2025年 12月19日
チャレンジマーケット
2025開催

- ◆対象者：以下のいずれかに該当する中堅・中小企業、大学等の皆様
- 三菱電機株式会社パワーデバイス製作所のニーズに対応する技術(シーズ)をお持ちの方
 - ニーズに該当しないものの同社に対して技術(シーズ)提案を希望される方

※お申しいただいた個人情報については、事務局[九州経済産業局、一般社団法人九州半導体・デジタルイノベーション協議会]、三菱電機株式会社で適切に管理し、本事業の運営に関する業務にのみ使用いたします。
また、ご提供いただいた個人情報は、事務局においてその保護について万全を期すとともに、ご本人の同意なしに事務局以外の第三者へ開示、提供することはありません。

■本事業は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の「特定半導体の安定供給体制の構築・維持に必要な九州地域のサプライチェーン強化に関する調査」の一環で実施するものです。

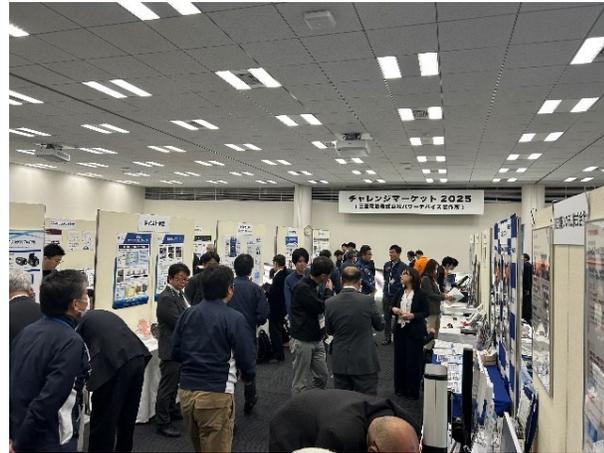
○ 開催概要

日時：2025年12月19日(金) 11:30～15:40

場所：同社パワーデバイス製作所
(福岡県福岡市)

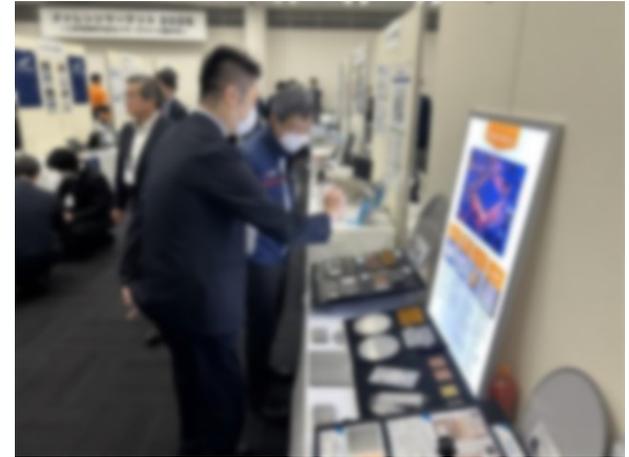
参加者数：44件、47社（共同出展含む）

来場者数：300名超



ニーズ・キーワード

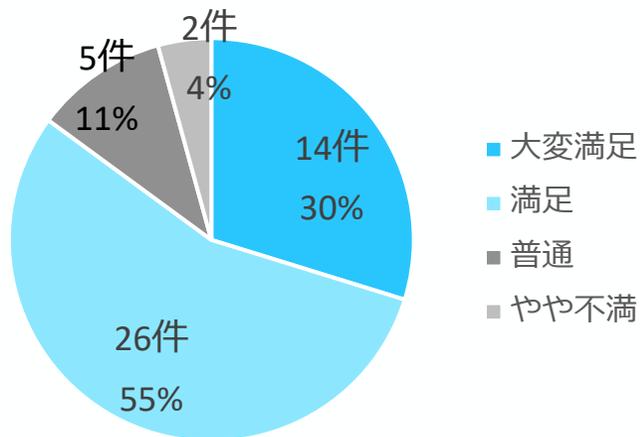
- ・プロセス・材料・装置・評価技術
- ・高性能化（高速・高精度・高耐久・高品質）
- ・環境性向上（CFP、リサイクル）



チャレンジマーケット2025（出展社・三菱電機出席者アンケート結果）

出展社側

出展社全47社に出展満足度をアンケート調査。
「大変満足した」「満足した」と回答した方は85%だった。

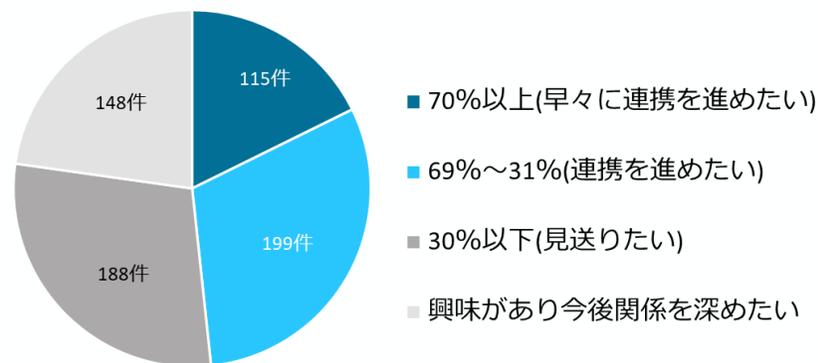


【出展社コメント】

- 新規引き合いが数件あった。
- 製品にマッチした相談を複数件伺うことができた。**
- 三菱電機の多数の従業員と意見交換ができ、**他の展示会と比較し三菱電機や出展企業、参加していた公設試等、数多くの方々と意見交換を行い、製造の最前線の生声を聞くことができた。**
- 三菱電機の多数の従業員と意見交換ができ、**他の展示会と比較しても非常に活況**だと感じた。
- セミコンジャパンと同期間であったのでタフな状況であった。
- 出展内容とマッチする課題が少なく、あまり名刺交換ができなかった。
- 準備していた技術資料が三菱電機のニーズにうまく合致していなかった。

三菱電機出席者側

- 三菱電機パワーデバイス製作所および関連企業の担当者がブースを訪問し、出展者のシーズを評価。評価総数の約5割から「課題解決に向けた可能性」を評価。



- シーズに対して、評価ポイント、課題点ともに「**技術開発力**」が最も高い回答数となった。

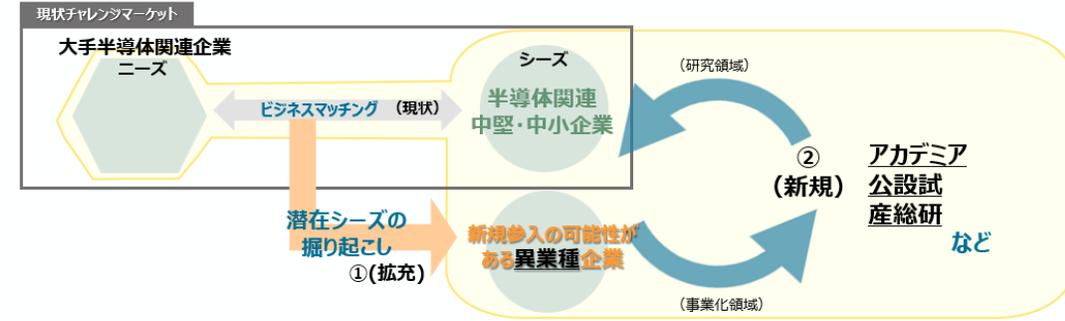
評価のポイント		課題点	
①技術開発力	237件	①技術開発力	86件
②品質	89件	②品質	66件
③安定供給（コスト・納期）	42件	③安定供給（コスト・納期）	68件
その他	127件	その他	112件

※「評価のポイント」、「課題点」は任意回答のため、左記「課題解決に向けた可能性」と件数は一致しない

チャレンジマーケット 今後の開催方向性

さらに効果的なマッチングの実現に向け、以下の拡充の検討を進める。

- ① 大手半導体関連企業 × 中堅・中小企業（半導体 + 異業種）
 - ・ 異業種分野が持つ潜在的な技術シーズを発掘し、半導体産業への応用を促進
- ② 大手半導体関連企業 × 中堅・中小企業 × アカデミア、公設試、産総研 等
 - ・ 中堅・中小企業の技術シーズを、アカデミア・公設試・産総研等と連携し、課題を解く



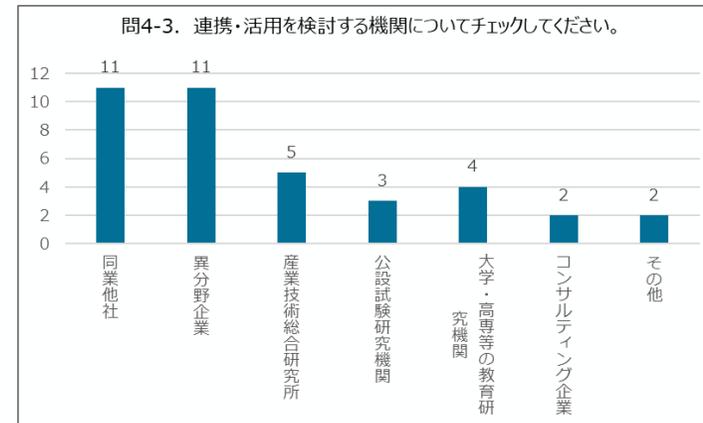
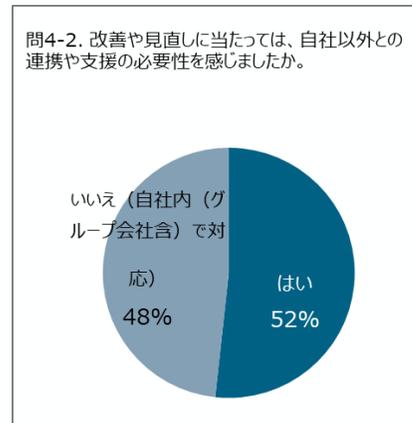
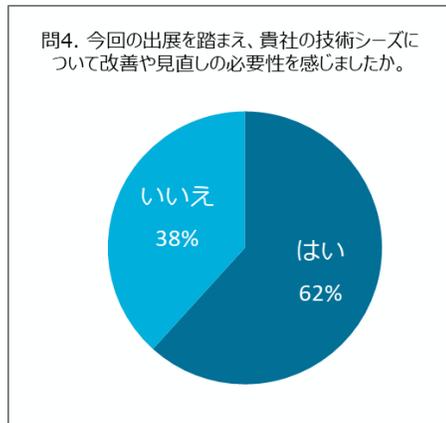
チャレンジマーケット2025出展企業に対し、外部連携に係るニーズを調査。

出展企業全体の6割が改善や見直しの必要性、このうち半数が自社以外との連携や支援の必要性を回答。

各連携先ニーズに対して検討を進める。

- (1) 同業他社、異分野企業
- (2) 産総研、公設試、大学/高専等アカデミア

→コーディネータ等による伴走支援を通じた、企業間のマッチング体制構築
→連携体制検討のためアンケート・ヒアリング調査等



企業間交流会

結果報告

- 企業・団体とのネットワーク形成・連携を目的として、開催。
- 参加者からは、「情報交換の場として非常に有用だった」「非常に勉強になった」等とのコメントを頂いた。

大分港

- ◆ 開催日：2026年1月30日
 - ◆ 参加者：35名
 - ◆ 実施内容(プログラム)
 - 1) 大分港 概要説明
 - 物流基幹拠点として機能強化が進む「九州の東の玄関口 大分港」
 - 2) 施設見学
 - ・ 大在コンテナターミナル
 - 九州では博多港、北九州港に次ぐ定期コンテナ船便数の多さ
 - 最新コンテナクレーンによる安定した荷役作業の提供
 - ・ RORO船ターミナル
 - 関東向け定期RORO船便数は九州最多、海上輸送時間は最短
- ※トラックドライバーの労働時間規制対策として海上輸送へのモーダルシフトを活用
各種助成金あり

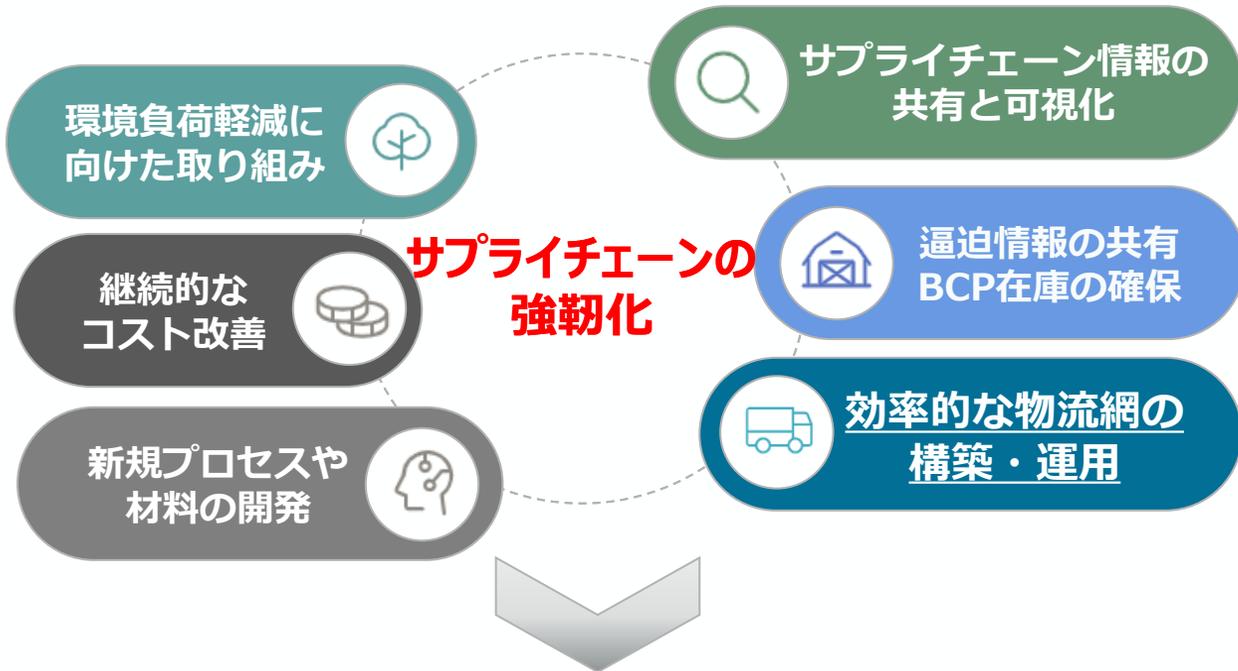
大分港での見学会について (開催後 参加者アンケート)



九州物流網構築 活動背景

半導体サプライチェーンを取り巻く認識

- 九州は国内における半導体産業の最大の集積地
- リスク対応力“量と質の両面での供給力強化”



■ 喫緊の課題

- 2024年問題(物流問題)~ 2035年問題(超高齢化社会)
- その他ビジネス環境の急激な変化、複雑化による対応難易度の上昇(スピード,機能)

💡 活動のポイント

- ✓ 共通化した取り組み,考え方の構築
・サプライチェーン強靱化に対する一貫した考え方とする
- ✓ 企業規模によらず、すべての企業にメリットを
・全体最適を進めることで皆様の価値に繋げる

最初の取り組みとして、九州域内物流の最適化・強靱化・安定化を目的とした「九州物流網構築」(共同配送,共通倉庫活用)の検討を進める

- ✓ 各社会課題の解決やBCPへの対策、備えにもなる
・更には九州に留まらず、他地域展開も想定しながら進める

九州物流網構築概要

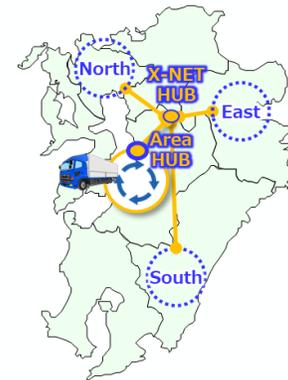
考え方、ステップ

- **共同、協業、共通化**をコンセプトに**効率化、BCP対策、環境負荷の低減**をメリットとした取り組みを実行していく
- 2025年度の進め方は、スモールスタート(取り扱い品目、エリア等)で骨格を決め、実証による確認/改善を行いながら、共同配送を開始する (launch)。また、九州域内への横展開を進める。

X-Net の強み	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「毎日・定時」で誰もが使える ◆ 「循環・往復」で運ぶ ◆ 「安心・安全」の先進倉庫
BCP	<p>有事の備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「商品の位置情報」が見える (納期対応・迂回) ✓ 域内供給・九州域外支援できる(航空、フェリー、トラック他)
ビジネス 展開	<p>意思決定を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 新規取引先との物流セットアップがシンプルになる ✓ 物流以外のビジネス活動に注力できる
課題解決	<p>リスクを回避</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 24年問題「運びづらい」L/T延長・コスト増 (個社課題) ✓ 35年高齢社会「運べない」生産・販売影響 (社会課題)
社会貢献	<p>CSRを果たす</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 温室効果ガスの排出削減、渋滞緩和(高速・街) ✓ 新生シリコンアイランド九州の活性化に貢献

Launch Target

- ◇ 目指す姿 九州域内の**共同配送**開始
- ◇ 対象 半導体関連 **一般物**
- ◇ 機能 幹線便/循環便、HUB/Area HUB
- ◇ エリア **1箇所**



2026年度 ~

Final Goal

- ◇ 目指す姿 九州域内の**全拠点**配送開始
- ◇ 対象 半導体関連**全般** 一般物/危険物/設備
- ◇ 機能 幹線便/循環便、HUB/Area HUB、**自動化**
- ◇ エリア **全県**



203X年度 ~

九州物流網構築
→ 通称：X-NET

X-NET 開始目標 (Launch Target)

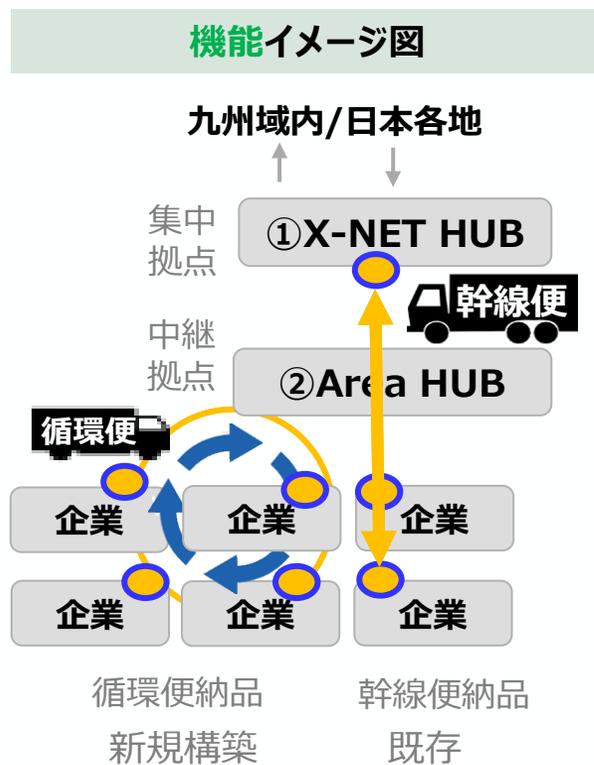
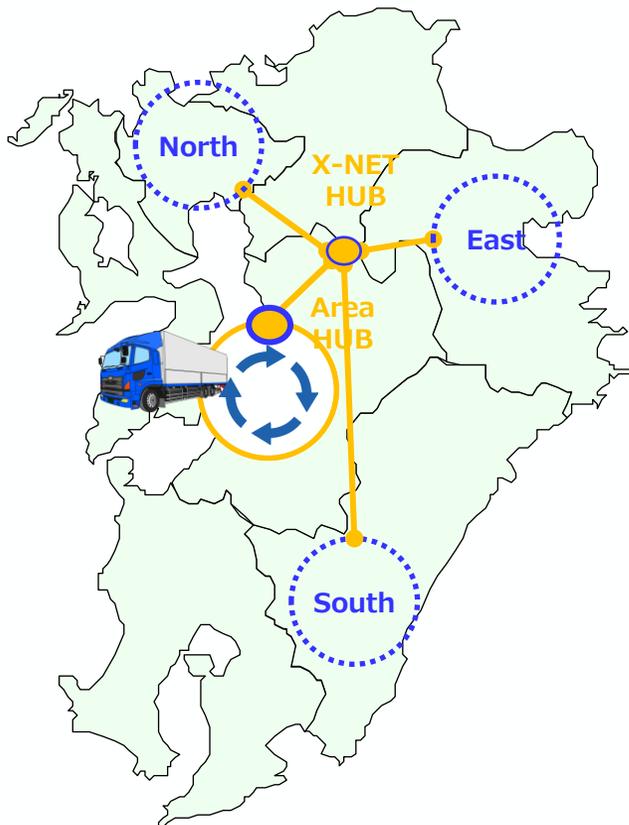
Launch Target

九州域内の**共同配送**開始

◇**対象** 半導体関連 **一般物**

◇**機能** 幹線便/循環便、HUB/Area HUB

◇**エリア** **1箇所** ※ 賛同企業様のデータに基づき決定します



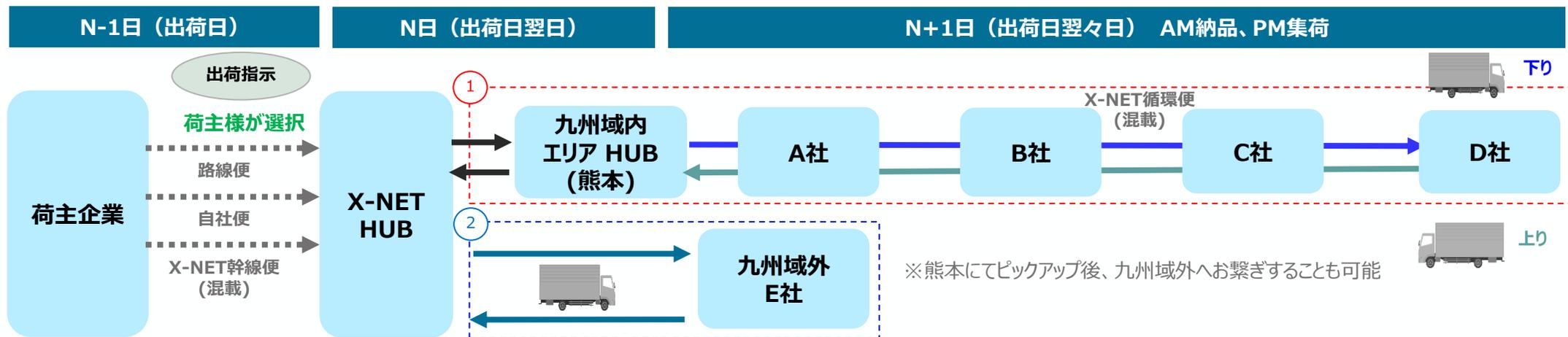
対象	定義
企業	九州半導体関連企業と取引を有する企業 (トライアルオフア：SIIQ会員/コンソーシアム企業様)
商品	生産材・設備部品 半導体製品、資材・通い箱、装置
機能	①X-NET HUB・幹線便(現有リソース) 集中拠点・Area HUB・Area企業への供給 ②循環便・Area HUB(倉庫保有の地場企業を優先) エリア内企業への供給
ルート	X-NET HUB ⇔ 1エリア 共同配送開始
活動	トライアル開始 25年度内 (随時) 運用開始 26年 4月～

X-NET 2025年度トライアル概要

概要

目標	基本ルール設定（ルート、時間軸等）と検証（振動、温湿度、リアルタイムモニタリング）
ルート	以下の2ルートでトライアルを実施。 ①九州域内（熊本）、②九州域外 ※X-NET HUBまでの物流については、荷主企業が出荷時に選択（路線便、自社便、X-NET幹線便）
期間	2026年1月～3月

時間軸



※エリア HUBの選定理由、及び九州域外への実証について

①エリアHUBを熊本に選定した理由

TSMC進出以後、増設・新設が進み、半導体企業の集積が加速している熊本で、輸送検証や実地調査を行うことで、本格運用に向けた実効的な検証が可能と判断。

②九州域内から九州域外への実証について

まずは既存インフラを活用し、一部エリアに限定して九州域内から九州域外への実証を開始。本プロジェクトは、九州域内で閉じるものではなく、荷主企業へのヒアリング調査や実証を通じて適正な物流ルートを設定し、半導体関連商品の各地への供給を目指すもの。

【ご提案】X-NET スキーム全体像

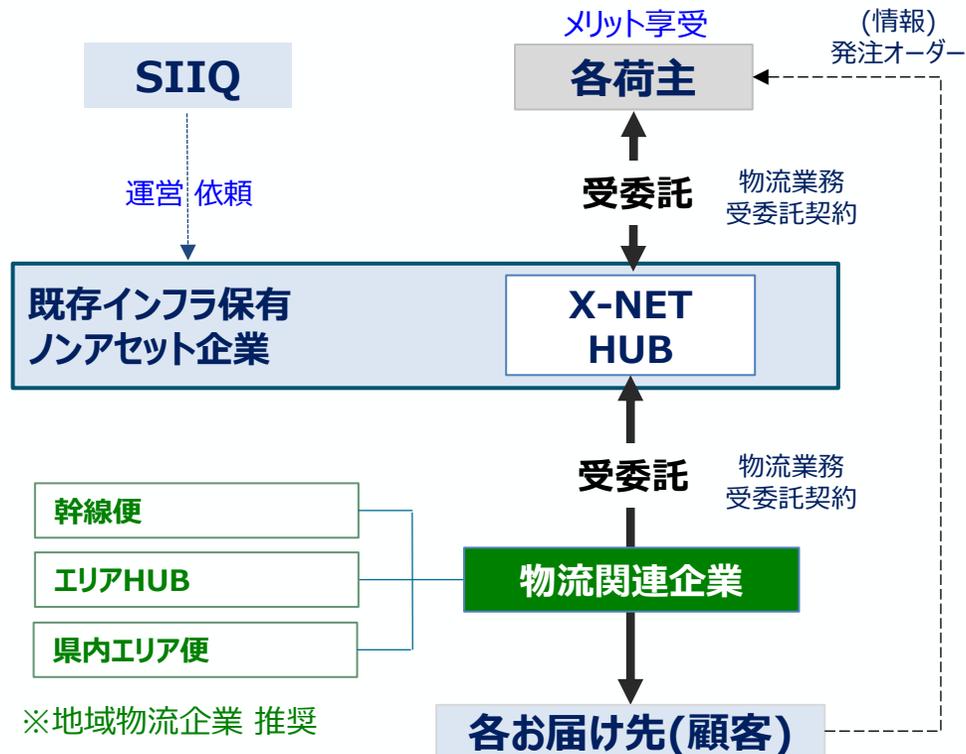
物流業界では、高齢化によるドライバー不足が顕在化し、安定供給・BCP・輸送品質確保が深刻化。
これに対し、半導体メーカー・商社・物流・施設（空港・港）など骨子メンバーで、既存インフラを最大限活用した新たなモデルを検討。

＜ポイント＞ ・個社毎の物流課題を共通プラットフォームで解決 ・地域の産業発展（物流企業メリット享受）

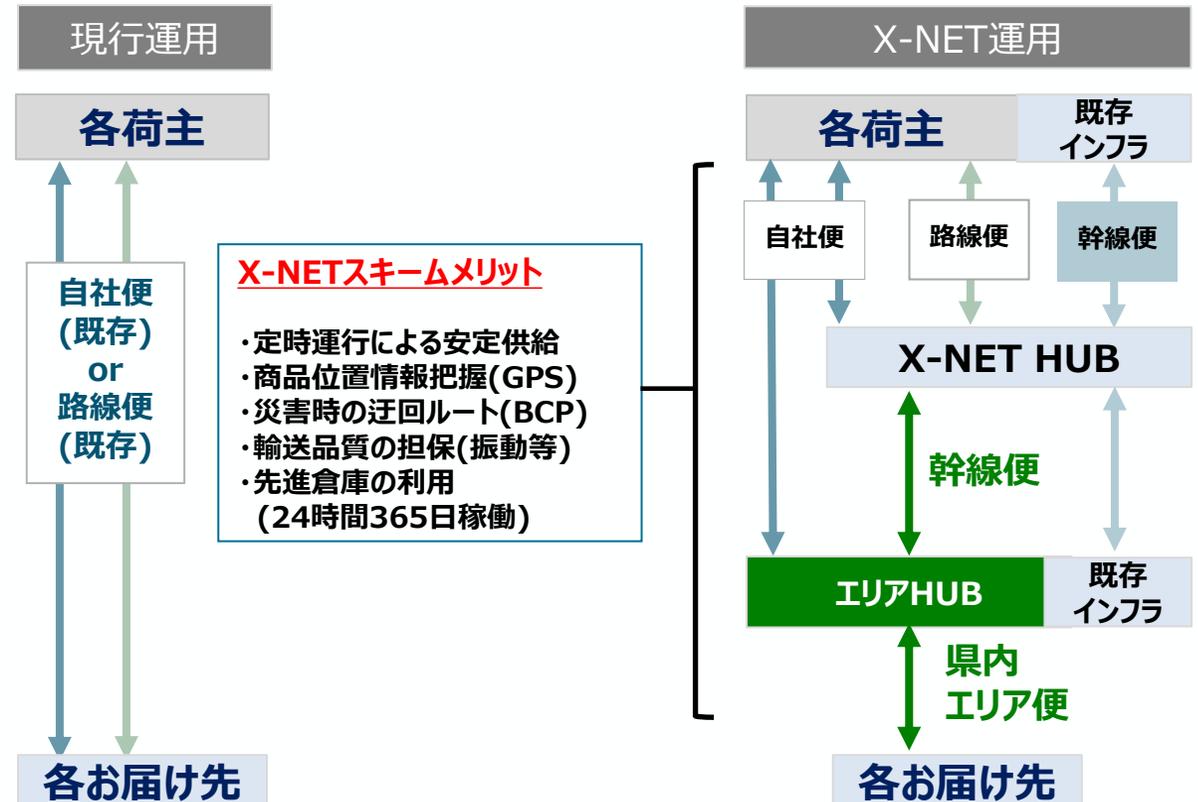
以下ビジネスモデルと運用モデルを提案

- ①ビジネスモデル（商流）：大手半導体企業との幹線ルート・基幹倉庫などの既存インフラを活用して、物流企業の新規ビジネス創出を図る
- ②運用モデル（物流）：荷主が自由に物流ルートを選択でき、安定供給・BCP・輸送品質担保を実現する（※将来の自動運転への備え）

①ビジネスモデル（商流）



②運用モデル（物流）



全体スケジュール【X-NET】

	FY24	FY25				FY26
展開	4Q	1Q 4月～6月	2Q 7月～9月	3Q 10月～12月	4Q 1月～3月	1Q 4月～6月
構想 フェーズ	Launch Target定義決め		PJ参画候補企業様 面談	運用検討		
導入 フェーズ					トライアル開始 ※順次開始	
運用 フェーズ					運用修正	関係者 向け 説明会 本格運用

各種セミナーの開催

工場建設マネジメントセミナー（全2回）

工場建設は企業にとって一大プロジェクトであり、昨今の建設費高騰や事業環境の不確実性から、構想段階からの適切なマネジメント、構想以前の戦略的な事業方針策定が重要。セミナー参加者の構想～事業方針策定のステップを整理・理解促進を目的として開催。参加者の約85%が「大変満足」「満足」と回答。

第1回：「失敗しないための工場建設とは？」

建設計画策定～設計～建設工事管理～稼働

- ◆ 開催日時：2025年4月16日（水）14:00～15:30
- ◆ 講師：(株)プラスPM 浅海 満 氏
- ◆ 開催形態：オンライン
- ◆ 参加者：35名

第2回：「成功する新工場建設」

新工場企画支援～建設計画策定～設計～建設工事管理～稼働

- ◆ 開催日時：2026年2月13日（金）15:00～17:00
- ◆ 講師：(株)日本能率協会コンサルティング(JMAC) 神山 洋輔 氏
(株)プラスPM 浅海 満 氏
- ◆ 開催形態：ハイブリッド
- ◆ 参加者：25名

カーボンニュートラルセミナー

『中小企業のためのGX・脱炭素経営実践セミナー』

半導体関連産業の集積と環境負荷低減への要請を背景に、中小企業が実践的に取り組めるGX・脱炭素経営の理解促進を目的として、カーボンニュートラルセミナーを開催。

- ◆ 開催日時：2026年3月11日（水）13:30～14:30
- ◆ 講師：(株)肥後銀行、九州経済産業局
- ◆ 開催形態：オンライン
- ◆ 参加者：30名

サイバーセキュリティセミナー

『はじめてのAIとネットの安全講座 ～専門知識なしで学ぶ、AI時代の安心ポイント～』

昨今、企業規模を問わずサイバー攻撃事案が発生し、リスクは増大傾向にあるが、段階的な基礎的ブロックにより防ぐことができると言われている。急速な普及を遂げるAIに対し、セミナー参加者の自己判断力の向上を目的として、サイバーセキュリティセミナーを開催（予定）。

- ◆ 開催日時：2026年3月23日（月）午後
- ◆ 講師：日本マイクロソフト(株)
- ◆ 開催形態：ハイブリッド

参加申込はこちらから↓



（オンライン申込 受付中）

日本・台湾半導体技術国際シンポジウム

開催概要

- 海外との産業交流として、2023年9月にSIIQ、九州大学、工業技術研究院(ITRI)、陽明交通大学との間で **MOUが署名されるなど関係が深化**。2023年より「**半導体技術国際シンポジウム**」を開催。
- 2025年度の訪台では、上記のMOUに基づき、「**セミコン台湾2025**」の会場内において、日台ともに関心の高いテーマであった「**3Dパッケージング**」について、産学官による事例発表やパネルディスカッションを開催。
- 併せて、**現地企業や研究支援機関などを訪問**。

9月9日

【永泉晶圓(YQ SiC)訪問】

- SiCインゴット・ウエハ製造業
- 6インチ・8インチウエハを量産製造
- 12インチウエハを量産に向け開発中



9月10日

【日本・台湾半導体技術国際シンポジウム】

主 催：九州半導体人材育成等コンソーシアム、
工業技術研究院
テーマ：半導体3Dパッケージング
参加機関
日本：九州大学、パナソニックホールディングス(株)、
マクセル(株)
台湾：工業技術研究院、矽品精密、陽明交通大学



ITRI
胡副院長



SIIQ
山口会長



コンソーシアム
星野代表幹事



台日半導体科技促進会
鄭 秘書長

9月11日

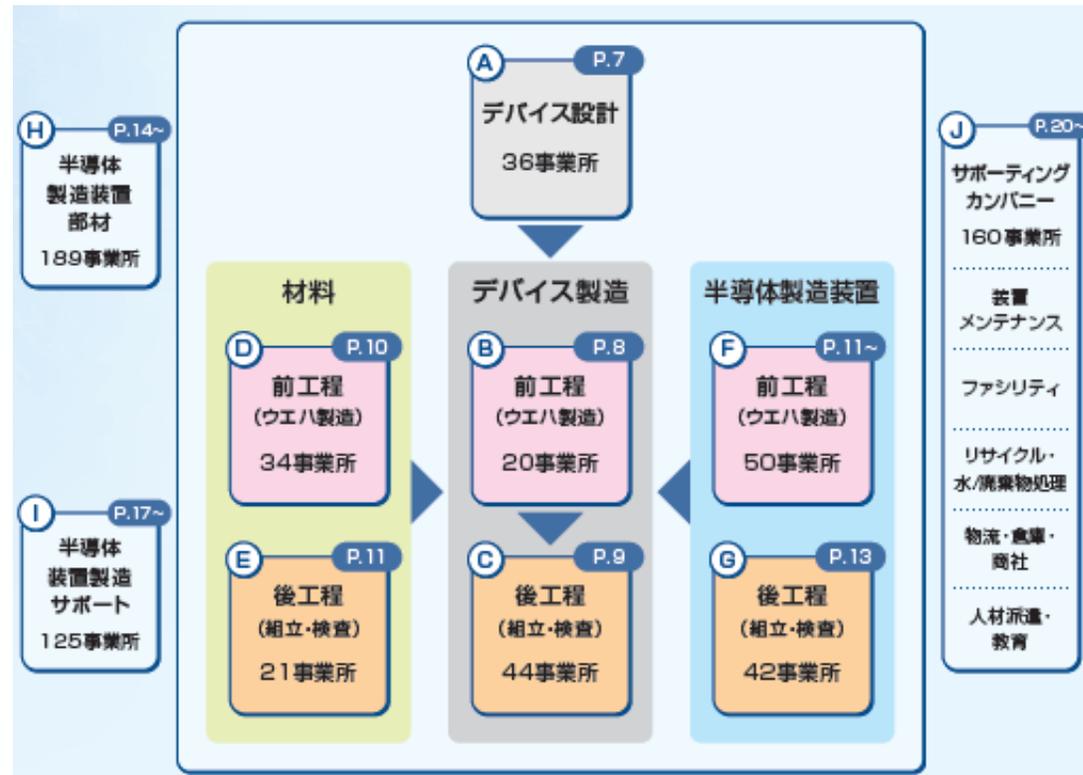
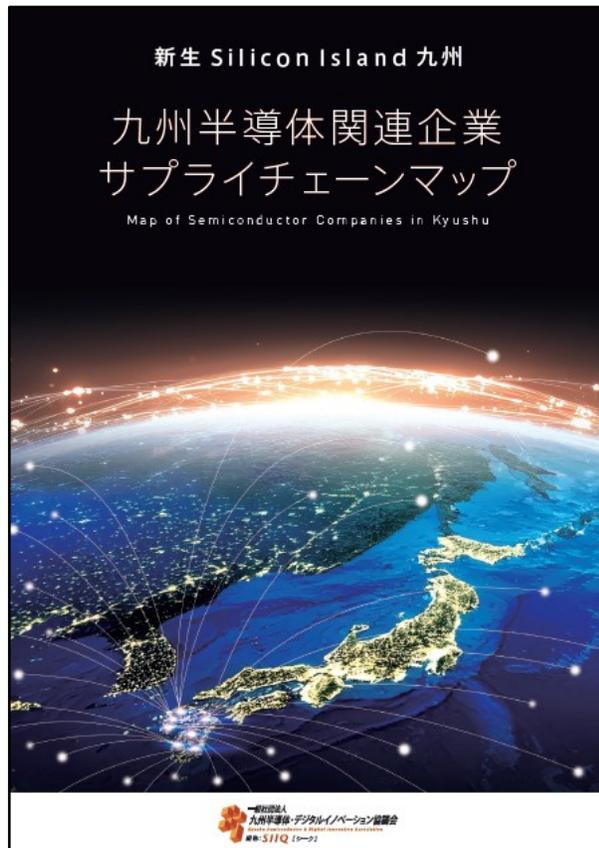
【工業技術研究院 (ITRI) 訪問】

ITRI施設視察と
日本企業2社と、台日半導体科技促進会会員
企業2社の**ビジネスマッチング**を開催



【共有】 サプライチェーンマップの更新

- 九州に立地する半導体関連企業の情報を集約した「九州半導体関連サプライチェーンマップ」の改訂を実施。
- 半導体産業サポート企業もマップ掲載の対象とし、現行版（2022年発行）よりも幅広い分野を掲載。マップ掲載方法もより分かり易い内容に見直しを実施。
- SIIQホームページに電子版掲載を予定（2026年4月頃）。印刷版の提供も可能。



2026年度活動計画（案）

取組方針

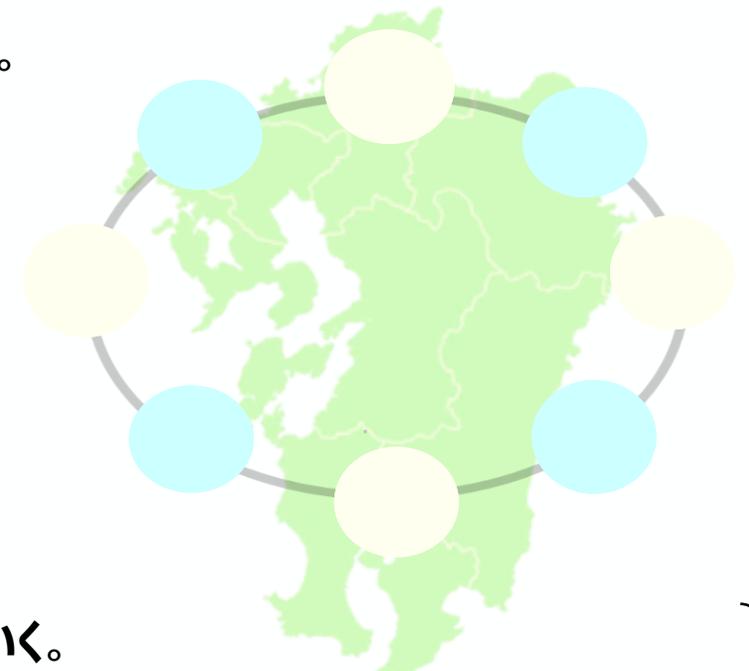
- 九州の半導体産業は歴史的にソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、三菱電機(株)等のデバイスメーカー、東京エレクトロン九州(株)や(株)荏原製作所等の装置メーカー、(株)SUMCO等の素材系メーカーといったグローバルサプライチェーンを担う企業や事業所が集積し、それらを支える約1,000社の企業群が存在。
- 特にJASMの2021年の立地表明以降、九州では大企業のみならず中堅・中小企業による半導体関連の設備投資が相次いでおり、231件、5兆7,994億円超の新規投資※が計画。
※2026年2月末時点 九州経済産業局調べ。金額は公表済のみ

九州の半導体産業の持続的な発展を支えるため、以下3つの柱に基づいた事業を推進。

1. サプライチェーンを支える地場企業の競争力強化
2. サプライチェーンを強固にする異分野からの参入促進
他地域（国内外）からの進出促進
3. サプライチェーンを維持・発展させるネットワークの構築

地場企業(1.)や進出企業個社(2.)の「点」としての取組を、
コンソーシアムに関わる複数企業の連携強化による「線」で結び、
個々の企業では解決が難しい課題を面的に克服していく仕組み(3.)を構築。

上記にあたっては、コーディネータ等による伴走支援を行いながら実現を図っていく。
また、九州に加えオールジャパンでサプライチェーン強靱化を進めるべく、九州外の他地域との連携も進めていく。



2026年度活動計画（案） ※2025年度事業との整理

2025年度事業

1. ビジネス創出・拡大に向けた取組

- 九州域内の大手企業と地場企業等との連携、マッチング（チャレンジマーケット等）
- 技術的な課題解決に向けた産学官の検討の場の開催（テーマ別ワークショップ等）
- 九州域外事業との連携・マッチング支援

2. 企業間連携によるネットワークの構築

- 企業間交流会（SIIQ主催）への参加（SIIQ会員交流会）
- 九州が一体となった効率的な物流網構築（九州域内共通化）

3. グローバルサプライチェーンへの対応

- グローバルサプライチェーンで求められる情報発信
※GX、サイバーセキュリティ、CN、PFAS 等
- 海外との交流等を活かした相互の情報発信（日本・台湾半導体技術国際シンポジウム 等）

2026年度事業

1. サプライチェーンを支える地場企業の競争力強化

- ▶ ① 大手・中堅企業と地場企業等との連携、マッチング（チャレンジマーケット） 【継続】
- ▶ ② 複数企業・アカデミア・支援機関間との交流（チャレンジコミュニケーション(仮称)） 【新規】

2. サプライチェーンを強固にする異分野からの参入促進、他地域（国内外）からの進出促進

- ▶ ① チャレンジマーケット（再掲） 【継続】
- ▶ ② チャレンジコミュニケーション(仮称)（再掲） 【新規】
- ▶ ③ 九州域外・海外企業との連携・マッチング支援 【継続】
- ▶ ④ コンソーシアム・ナレッジシェアの活用 【新規】

3. サプライチェーンを維持・発展させるネットワークの構築

- ▶ ① 静脈系企業の参画促進
製造系企業（動脈系企業）との連携（動静脈連携） 【新規】
- ▶ ② 共同物流網の構築（X-Net事業） 【継続】
- ▶ ③ グローバルサプライチェーンで求められる情報発信（各種テーマ別セミナー） 【継続】

1. サプライチェーンを支える地場企業の競争力強化

1-①：チャレンジマーケット2026

「大手企業（開催企業・1社）のニーズ」
×
「地場中堅・中小企業（出展者・複数）のシーズ」
マッチング事業

これまでの開催概要

2024年度：東京エレクトロン九州株式会社
2025年度：三菱電機株式会社パワーデバイス製作所（福岡市）



- 2026年度は広域連携の取組として、マイクロンメモリジャパン株式会社（広島県）にて開催（11月予定）。九州・中国地域の地場企業（中堅・中小）の取引強化、サプライチェーン構築を支援する。

1-②：チャレンジコミュニケーション(仮称)

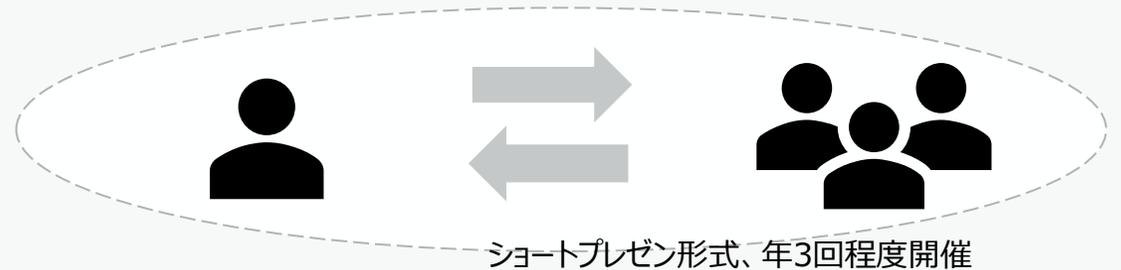
中堅・中小企業が抱える課題解決を目的とした
企業・アカデミア・支援機関・金融機関との交流事業

課題発表者（5～10者/回）

- ・ 自社概要
- ・ 課題
- ・ 求める支援技術

参加企業（聴講者）

- ✓ 企業（同業・異分野）
- ✓ 大学
- ✓ 支援機関
- ✓ 金融機関 など



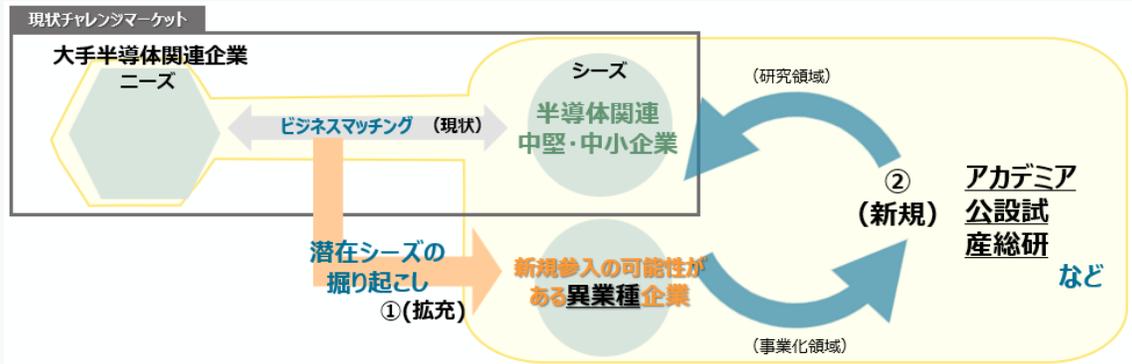
- コンソーシアム構成機関へのアンケートにおいて、企業・アカデミア・研究機関との連携の求める声が多く寄せられている。
- 既存事業のチャレンジマーケットは大企業ニーズ発の取組であり、地域中堅・中小企業が抱える課題解決に寄与する取組が不足。
- 企業・大学・支援機関に相談できる機会を設け、地域中堅・中小企業が抱える課題解決を支援する。

2. サプライチェーンを強固にする異分野からの参入促進、他地域（国内外）からの進出促進）

3. サプライチェーンを維持・発展させるネットワークの構築）

2-①：チャレンジマーケット（再掲）

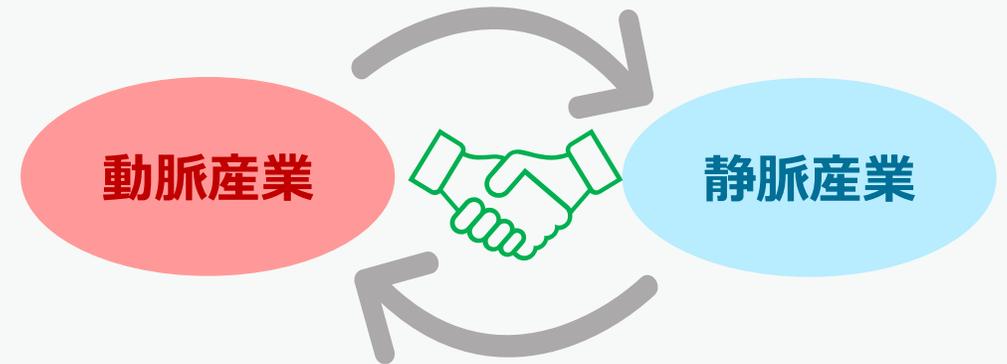
2-②：チャレンジコミュニケーション（再掲）



- 半導体を需要面で支えるユーザー系企業の進出や、半導体分野とは取引がなかった異分野の企業等の参入を促進することで、九州の半導体供給網の強靱化と拡大に繋げていく。事業スキームはチャレンジマーケット、チャレンジコミュニケーションを活用。
- 半導体異分野企業の参画も募ることで、半導体分野に転用可能な要素技術の掘り起こしを目指す。2025年から継続して、異分野企業の募集や参画を促すために必要な事務局体制の構築を検討。

3-①：静脈系企業（リサイクラー等）の参画促進

動脈系企業（メーカー等）との連携（動静脈連携）



- 九州が半導体産業の集積拠点としての発展には、サーキュラーエコノミー（CE）の実現が重要。半導体産業における環境への低負担化の意識向上や、低負担化に資する取引機会創出を推進。
- 半導体産業から排出される廃棄物の減量・減容、CEを実現し、それによる動脈系企業と静脈系企業の競争力強化、投資の促進を図るべく、①連携意識促進セミナーや個別企業マッチング支援、②動脈系企業と静脈系企業合同によるワークショップ等の実施を検討。

2026年度活動スケジュール（案）

		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
コンソーシアム 全体会合				●第9回	●第10回
SC強靱化WG 全体会合			●WG① 今年度の取組み	●WG② 中間報告	●WG③ 年度最終報告
1	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンを支える地場企業の競争力強化 サプライチェーンを強固にする異分野からの参入促進 	チャレンジマーケット2025 フォローアップ			
		チャレンジマーケット2026 ○企画調整	●募集開始 ●ニーズ説明会	●チャレンジマーケット2026 11月開催	○フォローアップ
2	<ul style="list-style-type: none"> 他地域（国内外）からの進出促進 	チャレンジコミュニケーション			
			●第1回	●第2回	●第3回
		九州域外・海外企業との連携・マッチング支援（随時）			
3	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンを維持・発展させるネットワークの構築 	九州物流網構築			
		●運用開始（予定）	※進捗確認実施		
		動静脈連携		●意識促進セミナー	●静脈系企業・動脈企業合同WS
		各種セミナー（時期未定）			